

三重教務所通信

2024

3月号



発行人:三重教務所長 長澤 隆司
〒511-0073 桑名市北寺町 47 教務所開所時間 平日 9:00~17:00
☎:0594-21-8000 FAX:0594-21-8010

✉ 三重教務所 E-mail mie@higashihonganji.or.jp
桑名別院本統寺・三重教区HPアドレス <http://mie-betsuin.com/> 📧



「令和6年能登半島地震」について

1月1日に発生した令和6年能登半島地震により被災されました寺院・教会、ご門徒をはじめ被災者の方々に対し、衷心よりお見舞い申し上げます。

① 三重教区の災害対応について

被災された教区に対し救援金をお届けするため、教区内全寺院を通して、教区内に広く救援金を勧募しています。つきましては、三重教区として被災された方々に寄り添い支援をいたしたく、皆様の温かなご協力をお願い申し上げます。（詳細につきましては、「三重教務所発第58号、（2024年2月15日）」をご参照ください。）

救援金額 一カ寺 30,000 円 門徒一戸あたり 1,000 円を金額の目安としてご協力をお願いしています。

なお、ご門徒さんが救援金を納められる場合は、所属寺を通じてご協力をくださいますようお願い申し上げます。

また、募りました救援金は、三重教区で一括して取りまとめ、本山をとおして被災教区等にお届けさせていただきます。

納金方法 下記の口座にお振込みいただくか、三重教務所へご持参ください。

十六銀行 桑名支店 普通 8523562

真宗大谷派三重教務所（シシユウオタニハミキヨウシヨ）

お振込の場合、領収書は「銀行振込明細書」をもって代えさせていただきます。

勧募期間 第1次締切 2024年3月末日まで

第2次締切 2024年5月末日まで

② 宗派（本山）の災害対応について

宗派（本山）の災害対応といたしましては、1月3日から宗務役員を現地へ派遣し（現在、第13次職員現地派遣チーム（職員7名）が、2月19日から23日まで活動を行いました。活動内容は、①情報収集（支援ニーズ・被災状況）、②ボランティア支援センター対応、③教区内寺院、庫裏の片付け、清掃、④寺院被害状況調査、⑤支援物資買い出しなどの支援活動を行っています。

最新の被災地の被害状況や、真宗大谷派の支援活動等は、宗派ホームページ及び災害情報公式 X で更新していますのでご確認ください。

被害状況の第5報（2月2日現在）

<https://www.higashihonganji.or.jp/news/relief/13305901/>

宗派ホームページ



真宗大谷派の支援活動等

https://twitter.com/otaniha_saigai

宗派公式 X 真宗大谷派災害情報



③ ボランティア活動について

このたび、2月1日に能登教務所内に「令和6年能登半島地震 真宗大谷派（東本願寺）ボランティア支援センター」が設置されました。ボランティアに対する主な支援内容は、ボランティア活動に関する情報の提供をはじめ、ボランティア名簿に登録されている方へのマッチング、宿泊場所の提供、活動経費の一部助成等になります。

また、ボランティア支援センターが紹介するボランティアの内容は、

1. 本堂等の寺院建物及びご門徒宅の片づけや清掃

2. 寺院や避難所への物資搬送

1.2.を伴う各種ボランティアを当面の中心的な活動として紹介しています。

震災からの復旧・復興に向けて、ボランティア活動が息の長い取り組みとなるよう、宗派として活動先と経費の支援を行っておりますことをご承知おきください。更に詳しい内容が、宗派ホームページに掲載されていますので、ご確認ください。

真宗大谷派（東本願寺）ボランティア支援センター

<https://sites.google.com/view/nvsc-otaniha/>

宗派ホームページ



三重教区からのお知らせ

○南勢1組第11次特伝スタート



2月18日（日）、多気町・法受寺を会場に、南勢1組第11次特伝がスタートしました。（講師：花山孝介氏（員弁組・遍崇寺）、補導：星川大地氏（三重組・大圓寺））

南勢1組では、11次特伝を「なむあみだぶつと私の人生講座」と題して、「私たちが何に対して手を合わせ、何を拝んでいるのかということ、ともに膝を突き合わせて確かめたいと思います」と呼びかけを行い、当日は、組内から24名のご門徒が参加されました。講師からは、はじめに「この講座の学びをはじめるにあたって」ということで、ご自身の仏教との出会いを紹介いただきながら、仏教

の基本的な学び方や、私たちの宗教（仏教）観を確かめながら講義をいただきました。

また、講義後には3班に別れて座談会を行い、講義の受け止めや参加の動機、お寺との関わりや自身の今の思いなど、それぞれが思い思いに語る姿が見受けられました。運営に関わるスタッフからは、新型コロナウイルスの影響で延期が続いたが、ようやくスタートできたという安堵の表情が垣間見られる第1回目の講座となりました。第2回目は3月16日に開催されます。

○中勢1組第11次特伝スタート

2月25日（日）、鈴鹿市・安養寺を会場に中勢1組第11次特伝がはじまり、組内18名のご門徒に参加をいただきました。

（講師：海野真人氏（中勢2組・法因寺）、補導：小幡智博氏（南勢1組・西光寺）

開講式・オリエンテーション・趣旨説明の場で、運営スタッフから「語り合うことと聞き合うことを大切にしたい。聞くのは他者の声だけでなく、自分自身が語った声も聞くということであり、そういう座談の場を大切にしたい」「この数回の講座を通して、仏法を聞き合う仲間づくりを目指したい」と、特伝に対する思いを参加者の前で語る事からスタートしました。



そして、参加者・スタッフ共に車座になって一人ひとりが自己紹介という形で、特伝を受講するきっかけや今感じていることを語り合いました。その後導入の講義では、講師から「あるおじいさんの話」として「身近に起こる自分の姿」を紹介され、参加者は自分の姿と重ね合わせながら話を聞き入っていました。講座終了後には、懇親の場も持たれ、食事を囲みながらスタッフ・参加者の交流を図るできた1回目の講座となりました。今後中勢1組は、参加者に毎回アンケートを取り、参加者一人ひとりの声を受け止めながら第11次特伝を進めていく予定です。第2回目は3月10日に開催されます。

○研修会（公開）のお知らせ 詳細は、三重教区・桑名別院ホームページを参照ください

真宗教団連合三重県支部北勢ブロック研修会

◎日 時 3月14日（木）14：00～16：00

（13：30受付開始）

◎場 所 三重同朋会館3階講堂

◎講 師 大野 照文 氏（真宗高田派 宝物館館長）

◎講 題 ヒトの知恵の落とし穴（ヒトの知恵から観る）

◎参 加 費 無料

※ どなたでも参加できます。なお、当研修会は北勢ブロック担当ですが、中南勢地区の僧侶・ご門徒の皆さまも是非ご参加ください。

聖典基礎講座

- ◎期 日 ①9月29日(金)、②11月30日(木)
③1月24日(水)、④3月27日(水)、⑤5月29日(水)
- ◎時 間 13:30 ~ 16:30
- ◎会 場 三重同朋会館3階講堂 ※ Zoomを使用したオンライン併用
- ◎講 師 高柳 正裕 氏(学仏道場「回光舎」舎主)
- ◎テ ー マ 「仏に遇うー真実の自己・世界に遇うー」
- ◎参 加 費 3,000円(年間5回分)
- ◎申し込み 三重教区・桑名別院ホームページ <https://mie-betsuin.com//>

得度義務研修会

- ◎日 時 3月29日(金) 10:00~15:30(研修後に事務連絡有)
- ◎会 場 桑名別院本堂(桑名市北寺町47)
- ◎対 象 満9歳以上(得度受式時)で2024年5月以降に得度受式を希望する者
※ 三重教区においては、得度出願の条件として、当研修会の受講が義務付けられています。
※ 詳細は、『三重教務所通信』(2023年12月号同封通知文、三重教発第26号)をご参照ください。

東海連区野球大会について(大垣教区当番)

- 期 日: 3月26日(火) 9時開会、15時30分閉会(予定)
- 会 場: 杭瀬川スポーツ公園野球場(岐阜県大垣市野口町1654番地1)
- その他: 野球大会後に懇親会を予定

東海連区野球大会が大垣当番にて開催されますので、是非とも当日はもちろん、練習にもご参加くださいますようお願いいたします。野球経験問わず、新メンバーも大歓迎です。

参加申し込み・練習日等の問い合わせは教務所まで

3月のテレホン法話

- 3月 1日~15日 …川口 信隆 氏(伊賀組 浄蓮寺 衆徒)
- 3月 16日~31日 …田代久美香 氏(員弁組 行順寺 衆徒)

心をひらく 24時間 いつでも どこでも テレホン法話
☎(0594) 23-6191

○特伝推進連絡協議会

1月26日に特伝協議会を開催した。当日改めて幹事の互選が行われ、岩田信行氏（南勢2組道専寺）を特伝協議会の幹事に選定した。

○教区「差別と人間を考える」協議会

1月31日に常任委員会を開催した。協議内容は、①今年度の総会及び学習会の持ち方について、②2024年度現地研修会【同和問題に取り組む三重県宗教教団連帯会議（三重同宗連）後期研修会と兼ねる】について。先般、本山において発刊された是旃陀羅問題学習テキスト『御同朋を生きる』について、教区役職者への説明会の実施について協議した。このテキストについては、将来的に各組において学習していくために、正副組長及び正副門徒会長等への説明会を考えているが、まず、今年度の総会時に当委員会委員及び研修員対象に説明会を開催する。総会は5月20日に開催する。

また、現地研修会については、内容を「部落差別問題に学ぶ」とし、「リバティおおさか」のフィールドワーク、食肉処理場見学（羽曳野市立南食ミートセンター）を予定している。今後、三重同宗連役員会にて決定する。

次回常任委員会は、3月6日（水）13：30から開催する。

○教学研究室—是旃陀羅問題に関する教区学習会開催

2月1日に「三重教区是旃陀羅問題に関する教区学習会」が、宮下晴輝教学研究所所長を講師に迎えて開催された。講義は2024年1月に本山において発刊された是旃陀羅問題学習テキスト『御同朋を生きる』を用いて行われた。本テキストは三章からなるが「第三章『観経』序分をどのように受けとめるか」を中心に進められた。

最初に是旃陀羅問題を考える上で『観経』というテキストに「旃陀羅」という語があるから差別経典か否かが問題なのではなく、その文脈が差別的であるかどうかの問題である」と指摘された。

そして「旃陀羅」の語が語られる『観経』序分の禁母縁の重要な点として「月光、耆婆の二人の大臣が、阿闍世による韋提希の殺害を止めようとした原因は、その行為が王侯社会の慣習法になく、クシャトリアの道にはずれる「無道」であり、「無道」の行為によってクシャトリア種姓しゅしやうの浄性を汚し不浄をもたらすものは「旃陀羅（チャンダーラ）」身分として*ヴァルナ社会から追放され、この王宮に留まることができないからである。「是れ旃陀羅なり」の語は比喻表現などではなく、阿闍世、韋提希と同じクシャトリア種姓に生まれた大臣たちにとって、体制維持を最優先とする諫言であり、忠告と読むことができる」と述べられた。

以上の領解に基づいて従来の「母親殺しは旃陀羅（チャンダーラ）のすることである」という解釈から「この〔クシャトリア種姓を汚す〕ものは旃陀羅（チャンダーラ）です」と訂正した読み方を提示された。

最後に、私たちは、「屠沽とこの下類げるい」を大地に投げ出された「いし・かわら・つぶて」に類比し、その存在を「われら」と自ら領いた親鸞聖人に、仏教本来の地平に帰った人の姿をみて、

いま一度『観経』の学びに立ち帰らなければならないと指摘された。(逢坂)

＊ヴァルナ社会：BC1000年～600年頃のインド・アリア社会において、ブラーフマナ（司祭者階級）、クシャトリア（王族戦士階級）、ヴァイシャ（庶民階級）、シュードラ（隷民階級）の4つに区分された体制による身分社会。ブラーフマナによって原始的な浄・不浄観が発達させられ、不浄と考えられる行為を行う者が賤民のグループと見なされた。「旃陀羅（チャンダーラ）」は最不浄のものとして、ヴァルナ社会の成員から排除され社会の外部に位置づけられた。

○ 寺院活性化支援室

亀山市にある5カ寺【本宗寺(市ヶ坂)・法因寺(東町)・正宝寺(中庄)・養覚寺(三寺)・超泉寺(沓掛)】による地域連続法話会を、「5カ寺連続法話会」と銘打って実施することとなった。

その第1回目が、2024年2月18日(日)13時30分より法因寺本堂において開催された。講師は法因寺住職で、教区慶讃事業推進委員の海野真人氏。「決めつけないこと」という講題で、休憩をはさみ約90分の法話があった。

日ごろ自分のまわりの人や出来事を査定して裁いていく自分の価値観によって、今度は自分自身が査定され裁かれていく。

その査定と被査定のあり様が、生活の中で感じる様々な生きづらさの原因になっているのではないか。アミダ(A-MIDA)はこの査定・被査定を無化するハタラキであり、その仏さまの目を通して日々の生活を見直していくことが、念仏の教えではないかと語られた。

参加者は25名ほど。5カ寺すべてから参加者があり、部内の住職も全員参加された。また、ロコミで真宗門徒以外の方々も何名か参加されていた。

次回は、4月28日(日)養覚寺本堂において、また三回目は6月15日(日)超泉寺本堂において開催されることになっている。(海野)



○ 教区坊守会

2月13日に委員会を開催した。まず、「令和6年能登半島地震」の救援金について、教区坊守会の対応を協議した。今回の地震は、真宗寺院及び門徒が特に多い北陸地方での震災であり、大谷派にとっても近年過去最大の被害となっていることから、過去の「東日本大震災」時の対応を参考に、教区坊守会員寺院に対し勧募を行うこと決定した。なお、それぞれの寺院事情に鑑み、金額を定めずに勧募を行う。次に、東海連区坊守研修会(大垣当番)について、前回の委員会において団体バスを用意することを決めたが、その詳細について確認した。(今月号に、案内チラシを同封していますので、是非ご参加ください。)

また、桑名別院報恩講反省会や、親鸞聖人御生誕850年・立教開宗800年・真宗教団連合結成50周年記念大会「花こぼし～親鸞聖人と恵信尼さま～」(2/20開催)の坊守会員の申し込み状況を報告した。(最終：24名)

次回委員会は7月1日(月)午前10時30分から、役員会は4月9日(火)午後1時から開催する。

三重教区慶讃事業の取り組み

2月21日に第2回目となる「三重教区宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃事業推進委員会」が開催されました。前回（10／31開催。『教務所通信』2023年12月号参照）委員会後、慶讃事業総合計画案を作成するため、常任委員会を3回（①11/22、②12/26、③1/30）に開催し、慶讃事業のベースとなる「三重教区・桑名別院慶讃事業計画書骨子（素案）」が作成されました。当日は、「計画書骨子（素案）」が委員会へ示され、その「素案」に対し委員から様々な意見や確認がありました。いただいた意見をもとに、今後、常任委員会で協議を行い、内容の加筆・修正が行われる予定です。

また、このたび推進委員会規則第7条に規定される部会が設置され、下記のとおり担当が決まりました。今後、各部会において、「慶讃事業総合計画案」の作成に向け協議が進められていきます。

委員長	副委員長
員辨 暁	林恒男

常任委員
員辨暁、林恒男、酒井誠、柴田徹、檉歩、西寺真也、林謙介、鈴木勘吾、石川加代子、石原孝、岩田信行、各部会主査・副主査

部会名	主査	副主査	委員名
教学教化部会	三浦統	林謙介	伊藤誓英、和田清一、佐々木治実、入野宣親、本多益、坂口愛、松井茂樹、河村論、折戸沙紀子、小幡智博、藤谷智史
参拝儀式部会	高木彩	石原孝	内山智廣、伊藤龍治、佐々木智教、渡邊譽、伊藤康、栗田顯、渡邊恵、本田武彦、高野昭磨、小幡実穂
広報部会	米澤典之	石川加代子	飯田弘登、荒木智哉、伊東幸典、山崎信之
教化機構検討部会	中川和子	柴田徹	三枝明史、長崎直、藤崎周子、渡邊憲明、大橋宏雄、海野真人

三重教務所	桑名別院
長澤 隆司	
窪田昌展、華岡眞樹、竹田彩子、藤井晃世、安藤みゆき、高科行	木造崇臣、金森了悟、藤井基和、内田誓、佐々木大、岡本寛之、五瀬勝明、白木俊正、山崎ゆかり、吉田玲子

本山からのお知らせ

○第8回「教勢調査」～3月31日最終締切～

1月1日より全寺院・教会を調査対象とした第8回「教勢調査」が実施されています。つきましては、社会状況に即した宗門の課題を把握し、各寺院の活性化に寄与する宗派施策展開のため、まだ回答をいただいていない寺院におかれましては、本調査へのご協力をお願いいたします。なお、ぜひともインターネットもしくは紙での回答にご協力賜りますよう重ねてお願いいたします。

「教勢調査」ページ URL <https://jodo-shinshu.info/ksr/>

パスワード k s r 2024



1月31日時点でインターネットでの回答がなかった寺院・教会に対しては、2月中に紙の調査票が本山より送られています。インターネットでの回答が困難な寺院は、紙の調査票での回答をお願いいたします。また、紙の調査票が届いた寺院・教会につきましても、3月31日まで引き続きインターネットで回答できますので、出来るだけインターネットでの回答をお願いします。なお、紙の調査票の提出期限・インターネットによる回答の最終締切日は、

2024年3月31日（日）です。

【お問い合わせ先】

宗務所企画調整局 TEL：075-371-9208

Mail：ksr8@higashihonganji.or.jp

詳細につきましては、『真宗』1月号「巻末特集」に実施要項が掲載されておりますので、ご確認ください。

設問にスムーズ
に答えられるイン
ターネットからの
回答にぜひご協力
ください。

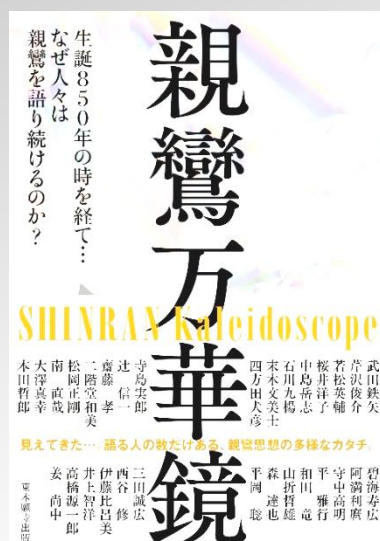
書籍のご案内(東本願寺出版)

『親鸞万華鏡』 ￥3,300（税込）

著者 武田鉄矢・芹沢俊介・若松英輔・桜井洋子・
中島岳志・石川九楊・末本文美士・四方田犬彦・
寺島実郎・辻信一・齋藤孝・二階堂和美・松岡正剛・
南直哉・大澤真幸・本田哲郎・碧海寿広・阿満利磨・
守中高明・平雅行・和田竜・山折哲雄・森達也・
平岡聡・三田誠広・西谷修・伊藤比呂美・
井上智洋・高橋源一郎・姜尚中

親鸞に関心を持ち、さまざまなジャンルで活躍する方々にインタビュー。現代を生きる30名の人々の多様な親鸞観に耳を傾けます。

生誕850年の時を経て、いま親鸞思想の豊かな可能性を未来へ向けて解き放つ。



今月の法語

(砂漠に咲く花が、王子さまに対して)

「あれ（人間）は風に飛ばされるでしょ

根がなくて生きるのって大変よね」

『星の王子さま』 サン＝テグジュペリ

晴耕雨読（教務所員から）

教務所囑託：高科 行

忘月忘日 ついにその日が来た。

ここ10年間は風邪もひかず、インフルエンザにも罹患せず「毎日欠かさない、体内アルコール消毒のおかげだな」と自画自賛していたのに。

一身上の都合で昨年8月から一年間の「断酒」に突入して半年が経過、40年ぶりの長期休暇で肝臓が油断したのかCOVID-19に侵されてしまった。



ウィキペディアによると世界で感染者は6億人を超えており、私も「超えてる人」の1人としてカウントされ、はからずもウィキペディア・デビューを果たすことになる。

感染者取締捜査本部じゃなかった「日本医師会感染症危機管理対策室」から「発症2日前から発症後7～10日間は感染症のウイルスを排出する」といわれており、特に発症後5日間は他人に感染させるリスクが高い」と厳しく「感染責任」を追及される。容疑者としては任意で取り調べに応じ、アリバイを実証せねばならぬ。

慚愧の想いで自供すると、某月末、2日続けて就寝中胸部に強い悪寒有。「今年は寒いな」と老いを感じつつ出勤。雪かきをし、お昼には町内仏教会新年会にて歓談。3日目出勤。会議に出席し司会進行を務める（参加者12名）。4日目「ん。ノドが風邪っぽいな」と感じつつ終日法務。5日目終日法務。夕方には「住職、風邪ですか」と尋ねられ「いえ、お香の煙を吸い込んで…。ケホケホ」と、即座に誤魔化す。6日目出勤。午後は学習会司会を担当（参加者29名）。夕刻「高科さん、声がヘンですよ」とT書記に指摘されつつも、夜はS寺同朋の会に出講（参加者5名）。途中「マズイこれは確実に風邪ひいた。調子悪い」と自覚。帰宅後検温、38.1度。7日目午前、町内MクリニックにてCOVID-19検査（例のドライブスルー方式の鼻ツッコミ型）を受診。同日午後、陽性判定下る。容疑者は再びドライブスルーでの出頭を命じられ、5日間の自宅謹慎を厳に命ぜらる。「今、増えてるんだよね」とM医師（推定67才）。いかん、クラスター発生「主犯・実行犯」の容疑は濃厚だ…。

仮釈放の身で職場復帰して2週間が経過。あらたな感染者の報告はなく、どうやら逆転無罪が確定したようだ。長かった容疑者生活から晴れて無実の身に復帰だ。

知らぬとは言え、多くの方々を感染の危機に陥れていました。お詫びいたします。

「知って犯す罪よりも、知らないで犯した罪の方ほうが

はるかに重くて恐ろしい」 釈尊



日	曜	行事内容
1	金	慶讃事業常任委員会 10:00- / 教化事業構築のための学習会④13:30-(対象:教区教化委員)※サテライト会場 中勢1組安養寺
2	土	
3	日	
4	月	
5	火	特伝協議会 14:30-
6	水	差別と人間を考える協議会常任委員会 13:30-
7	木	児連定例会 13:30-
8	金	合唱団「ひかり」練習日 13:00- / 教研月例会 13:30-
9	土	
10	日	中勢1組特伝本講座②13:00-(於:松林寺)
11	月	東日本大震災のつどい 13:30-
12	火	
13	水	
14	木	真宗教団連合三重県支部北勢ブロック研修会 14:00-
15	金	
16	土	南勢1組特伝本講座(於:法受寺)13:00-
17	日	
18	月	
19	火	
20	水	
21	木	
22	金	
23	土	
24	日	
25	月	
26	火	東海連区野球大会(当番:大垣)
27	水	聖典基礎講座④13:30-
28	木	
29	金	得度義務研修会 10:00-
30	土	
31	日	

【敬 弔】生前のご功労を深謝し謹んで
哀悼の意を表します。(敬称略)

桑名組 明光寺 住職 海老原 容光
(2024年2月1日寂)

南勢2組 光蓮寺 住職 藤井 秀見
(2024年2月17日寂)

四日市組 唯福寺 住職 田端 哲哉
(2024年2月19日寂)

同封書類

- ① ご坊さんだより
- ② 別院人生講座ポスター及びチラシ
- ③ 別院彼岸会ポスター及びチラシ
- ④ 東海連区坊守研修会チラシ
- ⑤ 東海連区坊守研修会三重教区バス研修のご案内
- ⑥ 東海連区坊守研修会参加申込書
- ⑦ 真宗教団連合三重県支部北勢ブロック研修会チラシ
- ⑧ 東日本大震災のつどいチラシ
- ⑨ 同朋大学2023年度学術大会チラシ

【②・③ポスターは寺院のみ】

3月以降(4ヵ月)の行事予定は、ホームページで公開していますのでご確認ください。

QRコードはこちら➡

